市民意見の募集結果及び市の考え方

1. 実施方法等

- ・ 実施方法・期間
 - パブリックコメント (8月1日～31日の31日間、6名意見提出)
 - 市民説明会 (8月6日～27日にかけて計6回開催、計79名出席)
 - その他(出前講座等) (9月末までで計264名出席)
- ・ 周知方法
 - 本庁舎、福岡庁舎、伏木・戸出・中田支所での縦覧
 - 市ホームページ、市広報紙(市民と市政8月号)

2. 意見の件数

- ・ パブリックコメント 20件
- ・ 市民説明会 72件
- ・ その他(出前講座等) 130件
- 計 222件

3. 意見の計画への反映等

- ・ 新たな視点など計画へ反映したもの 47件
 - 買い物支援サービスなど生活を支える様々なサービス間での連携
 - 地域ごとでの世代間や住宅の形態に応じた居住の循環の観点
 - コンパクト・アンド・ネットワークに関する経済面、環境面からの視点
 - 公共交通に関する近隣市との連携 など
- ・ 計画に記載済み、取組を実施中であるもの 98件
 - 計画(素案)と同じ方向性のご意見を多くいただいたほか、
 - ご意見とは異なるが計画の中で市の考えをお示ししているもの など
 - インフラや公共施設の整備や郊外での宅地開発(投資)の推進
 - 中心市街地ではなく新高岡駅を中心としたまちづくりの推進
 - 居住誘導区域外(田園集落、中山間地域)での生活の懸念
 - AIや自動運転技術の進展を考慮したまちづくりの検討
 - 計画の推進体制の構築 など
- ・ 今後の取組の中で参考とするもの 18件
 - 個別の土地利用の提案、市民意見の反映、計画の周知に関するもの など
- ・ 今後の関連計画の検討や取組の中で参考とするもの 40件
 - 人口対策、公共施設の再編、公共交通、働く場の確保、誘導区域外(田園集落や中山間地域)での振興策などまちづくり全般に関するもの
- ・ その他の意見(感想、本計画に無関係なご意見など) 19件

4. 主なご意見と市の考え方（市の考え方は 別紙 参照）

（1）「都市計画マスタープラン」について

① 全体構想

- ・ 高齢になっても徒歩や公共交通で暮らしながら生き生きとした生活を送りたい。
→ 生き生きとした生活のイメージの例として「生涯学習、スポーツ、家庭菜園」などの具体的なイメージを加筆。
- ・ 公共交通を充実・改善すべき。
→ 骨格となる交通ネットワークに加え「タクシーも含めた市民協働型の地域交通システムへの支援を行う旨」を加筆。その他バリアフリー化やシームレス化など利用しやすい環境づくりを進めるほか、「モビリティマネジメントの実施」を加筆。
- ・ 人口増へ向けて働く場の確保が最重要である。
→ 企業の誘致、既存の企業団地・工業団地の拡張やリノベーションに努める。
- ・ 郊外の田園集落等の維持や都市内農地の活用に関して今後の方向性を示すべき。
→ 農業や自然と調和し、原則、市街地をこれ以上拡大せず、農林水産業振興プランや山村振興計画など関連計画・施策と連携するほか、「都市内農地の利活用（生産緑地の指定など）を検討する旨」を加筆。
- ・ 地域の発展には道路の整備が必要である。
→ 公共交通を含めた既存ストックを最大限に活用し、車を利用できない高齢者、障がい者や子供などにとっても安心して暮らせる持続可能な都市構造を目指すため、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりに取り組む中で、戦略的に必要な道路については検討する。

② 地域別構想

- ・ 拠点間のネットワークに加え、拠点内（地域内）のネットワークも重要である。
→ 既存のネットワークの利用を促進する。また地域の特性に応じた「市民協働型の地域交通システムの導入支援」や「買い物支援サービスなどの様々な生活サービスと連携」を加筆。
- ・ まちなかばかりに投資するのではなく地域間での投資のバランスを考慮すべき。
→ 歴史・文化などの資源や、医療、商業、教育・文化、交流などを含めた様々な機能を担っている広域都市拠点や、地域住民の日常生活を支える地域生活拠点を維持することは市民の共通利益と考える。地域への投資バランスは重要であると考えており、中心と周辺市街地が役割分担しながら連携して躍動する都市づくりに取り組む。
- ・ 近隣市や市街地と郊外間の土地利用規制の格差を解消してほしい。
→ 農業や自然と調和し、原則、市街地をこれ以上拡大しない。地域の振興については、農林水産業振興プランや山村振興計画など関連計画・施策と連携する。

③ 実現化方策（立地適正化計画と共通）

- ・ もっと自治会を活用するなど市民に周知し市民の意見を聞くべき。
→ 本計画の策定に限らず、引き続き、「市民（自治会や各種団体等）への周知や、将来像の実現へ向け意見交換を続ける旨」を加筆。

- ・市と地域が一緒になって考えていくための推進体制を作るべき。
 - 市民や各種団体、関係機関等と連携しながら、今回、計画を策定する中での体制を活用し、まちづくりを推進するための体制をつくる。
- ・20年後だけではなく、短期・中期・長期ごとのビジョンを持つべき。
 - 将来像の実現には、長期的な取り組みを想定する必要がある、立地適正化計画では、各ステージで取組を段階的に進めることを示した。

今後、引き続き行う市民との意見交換、5年ごとに行われる国勢調査（人口動態等）・都市計画基礎調査（土地利用等）、上位・関連計画の改定などに基づき、定期的に計画を見直す。また毎年、立地適正化計画で設定した目標値の達成状況や、短期・中期でのビジョン含めた各事業・取組の進捗などを踏まえ、随時、計画を見直す。
- ・AIや自動運転の技術の進展を考慮すべき。
 - 技術の進展は著しいと認識しているが、国民に広く普及するのは時間がかかるほか、既存ストックや生活サービスの維持のため、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりは必要と考える。今後、PDCAサイクルの中でそうした技術の進展も見定めながら随時、計画を見直す。
- ・商業をはじめとした生活サービスの形態が変化していることも考慮し、様々な組み合わせにより生活を支えていくことが必要である。
 - 現在、買い物支援が展開されているほか、福祉・交通の分野でも類似の取組が展開されており、そうした取組の連携が図られるよう、仕組みづくりについて検討する。

（2）「立地適正化計画」について

① 基本的な方針、誘導区域の設定方針

- ・市街地と郊外の対立ではなく、地域ごとでの居住の循環を考えるべき。
 - 郊外での公共交通を含めた既存ストックを最大限に活用し、車を利用できない高齢者、障がい者や子供なども、徒歩や公共交通を利活用しながら安心して暮らせるライフスタイルを提案するため、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを示した。郊外にお住まいの方を強制的に移住させることは考えておらず、今後、その大きな方向性の中で、「それぞれの地域特性を踏まえつつ、今後、各地域においてまちづくりの将来像を描く中で、居住の循環の考え方を含めることを調査研究する」を加筆。
- ・（市街地の拡大も含め）誘導区域を広げるべき。（地域ごとのご意見）
 - 個々の区域の設定に関しては、今後、各地域でのまちづくりの将来像を描く中で、必要に応じて見直しを行う。

② 居住誘導区域

- ・ 公共交通ではなく、自動車も考慮した区域設定をすべき。
 - 誘導区域の設定に当たっては、過度に車社会が進んでいる現状を鑑み、車を利用した郊外でのゆとりあるライフスタイルを尊重しつつ、徒歩と公共交通の利用を中心としたライフスタイルを提案するもの。このことから、車の利用者の利用を中心とした都市機能が立地する幹線道路沿道も含めて区域設定した。
- ・ 宅地開発の余地のある市街地郊外の田園地域を含めるべき。
 - 居住誘導区域の設定は、車を利用した郊外でのゆとりあるライフスタイルを尊重しながら、徒歩と公共交通の利用を中心としたライフスタイルを新たに提案するために設定するもの。

③ 都市機能誘導区域

- ・ 公共施設が含まれておらず、区域に含めるべき。
 - 「福岡健康保健センター」について区域に含める。
- ・ 二塚駅や林駅などは新幹線開業効果があり開発区域に入れるべき。
 - 都市整備の基本方針として、原則、市街地はこれ以上拡大せず、既存ストックを活用しながら、都市と農業が調和したまちづくりを進めることとしており、二塚地域の北部の一部は、都心エリアとして、交流・観光機能を担う地域と位置付けており、今後とも都市と農業の調和のとれたまちづくりを進める。

④ 誘導施設

- ・ 高齢者の生活には医療と買い物が重要である。
 - 日常生活においては、身近な地域で生鮮食料品を取り扱う店舗や内科を有する診療所が必要と考え、このうち 1,000 m²以上の店舗は拠点への誘導施設に設定した。今後、引き続き、都市機能の立地の動向等も踏まえ、関係機関と協議するなど施設種別の追加を検討する。
- ・ 人の集まる施設（市役所、市民会館、総合体育館）を高岡駅前に立地させるべき。
- ・ 市内外の方が利用する郊外にある施設はまちなかに立地させるべき。
 - 市民や県西部の方が利用される施設は、高岡駅周辺を含む広域都市拠点への立地が望ましいと考える。今後、その具体的な配置等については、既存施設の有効活用などの観点も含めて、今後、施設の方針を検討する。

⑤ 誘導施策

- ・ まちなかだけでなく、郊外も含めて空き家・空き地の対策が必要。
 - 「自治会や空き家活用推進協会と連携しながら、空き家・空き地の実態を把握し、所有者に対する適正管理の呼びかけや、空き家・空き地情報バンクの活用などにより流通の促進を図る旨」を加筆。

以上

市民意見の概要と市の考え方

A 都市計画マスタープラン

【序はじめに】

分類	意見の概要	市の考え方	計画への反映
第2章 高岡市の現況と課題			
A-1 5 都市計画上の課題	①高岡市は公共交通が充実していると言うが、本当にそうなのか。市民は実感していないのではないのか。	①本市は県西部の交通の要衝として、鉄軌道によって県西部の全市と連絡しているほか、高岡駅・新高岡駅を起点として各方面への路線バスも運行されており、交通基盤があるという点では充実しているが、車社会の進展により利用者が少なく、十分な運行本数が確保されているとも言い難いことから、市民に利用を呼び掛けることで充実に繋げたい。	①今後の参考とする（関係課と共有）

【第1編 全体構想】

分類	意見の概要	市の考え方	計画への反映
第1章 都市づくりの目標			
A-2 1 市が目指す将来像	<p>①富山市や青森市の二番煎じなのか。</p> <p>②安全で利便性がよく、生涯学習やスポーツのほか家庭菜園など、いきいきと暮らせる地域になってほしい。</p> <p>③区域外にも高齢者が住んでいるが、その人たちの生活はどうなるのか。</p> <p>④福岡町はコンパクトにまとまった街であり、これ以上、田を宅地化するなど市街地を拡大するのではなく誘導区域内の空き家に住むなど公共交通をもっと大事にすべき。</p> <p>⑤周辺には免許を返納する人もおり、そうした方々の生活を考えると、徒歩や公共交通で生活できる環境が必要である。</p> <p>⑥富山市では、経済面や環境面を前面に押し出しているのではないのか。</p>	<p>①鉄道駅などの周辺に居住を誘導するなど考え方に共通する部分はあるが、本市では誘導区域の検討に当たり、各地域に拠点を設定する考えを含めたことや、歴史まちづくりの重点地区を勘案するなど、本市の特徴に応じた内容としている。</p> <p>②ご指摘のとおり、高齢者だけではなく「いきいきして生活できるライフスタイル」のイメージを加筆する。</p> <p>③各地域の地域生活拠点で生活サービスを利用していただけるよう、徒歩や自転車のほか、骨格的な交通ネットワークや、タクシーも含めた公共交通を利用していただきたい。</p> <p>④原則、市街地をこれ以上拡大することなく、既存ストックを最大限に活用しながらコンパクトなまちづくりに取り組むとともに、教皇交通等のネットワークの維持・充実に努める。</p> <p>⑤徒歩と公共交通を利活用して生活できるライフスタイルを提案したい。</p> <p>⑥生活の面だけではなく、ご指摘のとおり様々な観点で有効な施策であり、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりの観点の一つとして加筆する。</p>	<p>①20 頁に記載済み</p> <p>②21 頁に「いきいきして生活できるライフスタイル」を加筆</p> <p>③20,21 頁に「タクシーを含めた公共交通」を加筆</p> <p>④20 頁に記載済み</p> <p>⑤20 頁に記載済み</p> <p>⑥20 頁に「経済的で環境面への配慮」を加筆</p>

	<p>⑦中途半端に周辺市街地も守るのではなく、もっと大胆にコンパクトシティを打ち出すべき。</p> <p>⑧公共交通を中心としたまちづくりをするのであれば、あまり自動車を前面に出すべきではない。</p> <p>⑨若い人は多少不便でも土地が安い郊外を選ぶのではないか。</p>	<p>⑦固有の歴史や文化を持つ各地域の特性に応じて、それぞれに拠点を形成し、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを推進する。</p> <p>⑧⑨コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりは、強制的なものではなく、車を利用した郊外でのゆとりある生活を尊重しつつも、徒歩と公共交通を利活用して暮らすライフスタイルを提案する。</p>	<p>⑦20 頁に記載済み</p> <p>⑧⑨21 頁に記載済み</p>
<p>A-3</p> <p>② 都市づくりの基本方針</p>	<p>①財政健全化緊急プログラムや公共施設再編計画とはつながりが見えない。</p> <p>②新しいものを作り市民が暮らしやすくなるのはいいが、今あるものを見直したり、自然に配慮したまちづくりも重要である。</p> <p>③道路整備が中途半端に止まってしまっており、税金の無駄使いだ。道路を作れば経済発展するし各方面へ真っすぐに行けるようにしてほしい。</p> <p>④人口減少の中、窮屈で縮こまった計画ではなく、地域の強みを活かして、アグレッシブなまちづくりを展開すべき。</p>	<p>①②今回、本計画で打ち出したコンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりは、自然や農業と調和しながら、既存のストックを最大限に活用していく考えで、各計画と同じ方向性をもって作成している。</p> <p>③今後は、既存のストックを最大限に活用し、インフラの維持に重点を置いた都市づくりへ転換を図る。戦略的に必要な道路は別途、検討する。</p> <p>④歴史・文化、自然のほか生活の利便性などの地域の強みを活かしながらまちづくりを進める。</p>	<p>①②22,23 頁に記載済み</p> <p>③23 頁に記載済み</p> <p>④今後の参考とする</p>
<p>第3章 都市整備方針</p>			
<p>A-4</p> <p>② 都市整備方針</p>	<p><人口減少少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり></p> <p>①空き家の増加がもたらす、悪影響に対する具体策は、有効活用すべき。</p> <p>②空き家・空き地対策はまちなかだけでなく、他の校下でも展開すべき。</p> <p>③空き家・空き地の有効活用へ向け地籍調査を推進すべき。</p> <p>④地域の要望の強い最低限必要な基幹生活道路は将来計画に組み込むべき。過去には道路の新設→宅地開発→人口増加→商業(スーパー含む)・事業所の新設→まちの活性化につながった事例は多くある。道路整</p>	<p>①②自治会や空き家活用推進協議会と連携しながら、実態を把握し、所有者に対する適正管理の呼びかけや、空き家・空き地情報バンク等を活用した流通の促進を図る旨、加筆する。</p> <p>③低未利用地の土地取引が円滑に行われるよう地籍調査を推進する。</p> <p>④⑤今後は、既存のストックを最大限に活用し、インフラ・公共施設の維持に重点を置いた都市づくりへ転換を図るため、居住誘導にあたって新たにインフラ・公共施設の整備を促進することは考えていない。なお、戦略的に必要な道路は別途、検討する。</p>	<p>①②29 頁に「実態の把握と適正管理」を加筆</p> <p>③29 頁に記載済み</p> <p>④⑤28,29,39 頁に記載済み</p>

	<p>備無くして居住誘導はありえない。</p> <p>⑤既存ストックの活用など小さなことをしているのではなく、ハコモノをどんどん作っていくべき。</p> <p><中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり></p> <p>⑥中心市街地は老人ばかりで空き家も多い。金屋で無電柱化の工事で多く税金を使っているが、金屋に観光客はどれだけくるのか。同じ税金を払ってなぜ地域で対応が違うのか。</p> <p>⑦過去に市街化調整区域に商業施設の立地(市街地の拡大)を提案したが、市の方針と異なり実現せず、隣の市に逃げていった。税収の上がるような開発を逃すべきではない。</p> <p>⑧今までまちなかに投資して賑わいは戻らなかった。常識にとらわれず、駅前を捨てるべき。</p> <p>⑨市街化調整区域の指定により、住宅の立地ができず孫子と暮らせない方が多くおり問題である。</p> <p>⑩農地や中山間地を誰が守るのか。イノシシが出るなど山が荒れている。</p> <p><「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり></p> <p>⑪人口増加のため積極的に企業誘致をすることが必要である。</p> <p>⑫公共交通を利用していたくためには、オフィスの立地を促進すべき。</p>	<p>⑥中心市街地を含めた広域都市拠点(都心エリア)は、歴史・文化などの資源を有し、医療、商業、教育・文化、交流を含め様々な機能を担っている。また周辺市街地においても地域住民の日常生活を支える重要な拠点である。</p> <p>そうした拠点を維持することは市民全体の共通利益となると考えている。一方、地域への投資バランスも重要と考えており、中心と周辺市街地が役割分担をしながら連携して躍動する都市づくりに取り組む。</p> <p>⑦本市では、人口減少の進展、中心市街地の活性化や公共交通の利活用の観点などから、駅周辺を中心とした拠点周辺に商業施設などの都市機能を誘導(維持)していく考えであり、駅からの徒歩圏 500m 以内を一つの考えとしている。</p> <p>⑧高岡駅前を含めた中心市街地は、古くから産業や市民生活を支えてきた地域であり、歴史・文化も多く残る地域である。今後は、公共交通も含めて既存のストックを最大限に活用し、高齢者、障がい者や子供など自動車を自由に利用できない方が安心して暮らせるまちづくりを進める。</p> <p>⑨市街化調整区域では、無秩序な市街化を抑制するため、立地可能な建築物の用途が限定されるが、一部制約はあるが、基本的に農家分家については立地可能である。</p> <p>⑩田園集落や中山間地域においては、「農林水産業振興プラン」などに基づき、優良農地や良好な農村景観及び農村環境の保全、生活環境の向上、コミュニティの維持などを図る。</p> <p>⑪企業誘致はもちろんのこと、既存の企業団地・工業団地の拡張、周辺基盤整備やリノベーションに努める。</p> <p>⑫職住近接の観点から身近な働く場が確保されるよう適正な土地利用の規制・誘導に努める。</p>	<p>⑥ 31 頁に記載済み</p> <p>⑦ 31 頁に記載済み</p> <p>⑧ 31 頁に記載済み</p> <p>⑨ 34 頁に記載済み</p> <p>⑩ 34 頁に記載済み(関係課と共有)</p> <p>⑪ 37 頁に記載済み(関係課と共有)</p> <p>⑫ 36,37,63 頁に記載済み</p>
--	--	---	--

	<p>＜広域間と拠点間の交通ネットワークが充実した都市づくり＞</p> <p>⑬戦略的の道路のうち、高岡北IC⇄伏木港・中心市街地のルートは、小矢部川を渡る橋梁を共有し、伏木港へは、高岡環状線（富山大学芸術文化学部前）への接続が妥当ではないか。</p> <p>⑭環状放射道路の完成に向け国県へ働きかけるべき。</p> <p>⑮広域的な中で高岡の将来像を考えるべき。</p> <p>⑯高岡駅と新高岡駅間のアクセスを改善すべき。（万葉線の延伸、タクシーが利用できない）</p> <p>⑰ネットワークの充実（新幹線とあいの風とやま鉄道・路線バス・万葉線の接続等）のため、事業者に働きかけていくべき。</p> <p>⑱バスの時刻表などをもっと周知すべき。</p> <p>⑲バス会社には他社ともっと競争させるべき。</p> <p>⑳路線を維持するためには乗車率を上げるしかないため、パークアンドライド用の駐車場を作るなど戦略的に考えるべき。</p> <p>㉑バス停まで遠くて歩いていけない。（高齢者にならないとわからないこともある、高齢者になってからバスに乗れるわけがない）</p> <p>㉒本当に公共交通を活用していくことは本当に可能なのか。市役所も含め沿線の企業で万葉線等を使って通勤している職員はどれくらいなのか。</p>	<p>⑬⑭現在、その必要性やルート選定の整理をしており、早期の事業着手へ向け、国県とともに課題解決に取り組む。</p> <p>⑮高速交通網を活かした将来像を描くため、とやま呉西圏域、金沢や飛越能のほか、大都市圏との更なる連携の方針を設定した。</p> <p>⑯これまで JR 城端線新高岡駅の整備、城端線の増便試行、路線バス(シャトル6)によるネットワークの強化や、タクシーの呼出電話の設置などアクセス改善を図ってきた。今後も都心軸の強化へ向け氷見線・城端線の直通化に向けた取組を推進するほか、万葉線の延伸等に向けた取組を支援する。</p> <p>⑰⑱交通事業者と連携して乗換の利便性向上を図るほか、バスロケーションシステムなど適切な情報提供を行う。ただし、ネットワークの充実には利用者増を並行して進める必要がある。</p> <p>⑳施設のバリアフリー化やシームレス化のほか、パークアンドライドの促進などにより、公共交通を利用しやすい環境づくりを進める。</p> <p>㉑㉒路線の維持や運行本数・運賃の設定は、利用者数との関係が大きく影響する。公共交通は、経済的で、健康等にも良いことから、子供の頃から利用していただくなど、市職員も含めた公共交通の利用促進のためのモビリティマネジメントを推進したい。（まず乗る、乗って便利にする）</p>	<p>⑬⑭今後の参考とする</p> <p>⑮20,23,24, 25,38,39 頁に記載済み</p> <p>⑯43 頁に記載済み</p> <p>⑰⑱⑲43 頁に記載済み</p> <p>⑳43 頁に記載済み</p> <p>㉑㉒43 頁に「モビリティマネジメント」を加筆</p>
--	---	---	--

<p>②③駅前を中心にまちづくりを進め、それ以外の人には公共交通を地元負担でやるように聞こえたが、それはいかがなものか。</p> <p>②④地域の課題は地域の方が一番知っているため、公共交通については地域の方が一緒に考えていく必要がある。</p> <p>②⑤地域バスの実現へ向け、国や県へ支援を要望すべき。</p> <p>②⑥既に一部で導入されている地域タクシーはうまくいっていないと聞いている。</p> <p>②⑦市内観光にはタクシーを使わざるを得ず、公共交通を充実すべき。</p> <p>②⑧氷見市ではスクールバスを日中に有効活用し黒字化したと聞いており参考とすべき。</p> <p>②⑨若者は車も使えない人も多く、公共交通の充実したまちは魅力的であり、人も増えるのではないか。</p> <p>③⑩コミュニティバスの導入が早すぎて利用者が少なかったのかもしれない。将来的に必要なになってくると思うので新ためて考えてほしい。</p> <p>③⑪近隣市(射水市)のコミュニティバスと連携すべき。</p> <p>③⑫公共交通を利用すべきというなら路線バスを整備すべきではないか。</p> <p>③⑬牧野地区では牧野大橋を經由し、能町方面へのバスを検討すべき。</p> <p><歴史・文化と自然を生かした都市づくり></p> <p>③⑭歴史的なまち並みは、残すところは残す、開発するところは開発するなど、メリハリをつけるべき。</p>	<p>②③④⑤⑥駅前など地域の生活拠点を維持しながら、まずは、沿線地域の方に乗っていただくなど路線バスの維持に努めたい。</p> <p>その上で、公共交通の不便・空白地域では、地域の方にも一定の負担をいただきながら地域住民が主体となった多様な交通手段(地域バス・地域タクシー)を含めて地元の方とともに検討したい。</p> <p>また、市内では既に導入事例も複数あり、そうした地域での課題を踏まえるほか、国県からの支援も含め市として支援したい。</p> <p>②⑦⑧⑨路線バスを地元の方に利用してもらうことで、観光客の方への利便性が高まるほか、観光客の方が路線バスを利用することにより、地元の方の利便性も高まると考えている。</p> <p>今後、観光列車・バスのほか、タクシーも含めて交通の受入基盤の整備やPRに努めたい。</p> <p>③⑩コミュニティバスの廃止は、循環型バスの利点が生かされていないなど課題の解決に至らず、運行終了を判断したもの。</p> <p>今後、買い物支援や福祉系の支援制度など、地区の実情やニーズなどに柔軟に対応できる地域バスや地域タクシーといった市民協働型の地域交通システムの導入に向けた提案を実施する。</p> <p>③⑪③⑫③⑬地域バス・地域タクシーの導入支援も含めて地元からの相談に応じる。</p> <p>③⑭歴史まちづくり計画における重点区域では、歴史的風致の維持・向上を図るため、地域の方々と連携して取組を進めたい。</p>	<p>②③ ②④ ②⑤ ②⑥ 43 頁に「市民協働型の地域交通システム」を加筆(関係課と共有)</p> <p>②⑦⑧⑨今後の参考等する(関係課と共有)</p> <p>③⑩43 頁に「市民協働型の地域交通システム」を加筆</p> <p>③⑪③⑫③⑬43 頁に「近隣市との連携、地域バス・地域タクシーへの支援」を加筆(関係課と共有)</p> <p>③⑭45 頁に記載済み</p>
--	---	---

<p>③⑤市街地内の農地の今後について考えるべき。</p> <p>③⑥高齢者が楽しめる貸農園などの仕組みづくりを進めるべき。</p> <p>＜安全・安心で快適に暮らせる都市づくり＞</p> <p>③⑦高齢者等が安全に歩ける環境づくりをすべき。</p> <p>③⑧拠点にスーパー等を集め、公共交通を利活用する生活は環境にもよい。</p> <p>③⑨農業用水に雨水が入って溢水している問題に対応してほしい。</p>	<p>③⑤③⑥市街地内の農地は、農地の持つ農産物を供給する機能、防災機能、良好な景観の形成機能等の多様な機能も発揮できるよう、生産緑地の指定などの保全策や、貸農園などの活用策を検討する。</p> <p>③⑦ソフト・ハード両面から安全な空間整備を推進する。</p> <p>③⑧コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりにより、地球環境にも配慮した持続可能なまちにつなげる。</p> <p>③⑨まずは状況を確認させていただき、対応を検討したい。</p>	<p>③⑤③⑥46 頁に「貸農園としての活用」を加筆</p> <p>③⑦49 頁に記載済み</p> <p>③⑧49 頁に「地球環境に配慮」を加筆</p> <p>③⑨今後の参考とする（関係課と情報共有）</p>
---	---	--

【第2編 地域別構想】

分類	意見の概要	市の考え方	計画への反映
第1章 地域区分の設定			
<p>A-5</p> <p>地域区分の設定</p>	<p>①牧野地区はなぜ中部地域なのか。</p>	<p>①拠点の形成の観点、学校区、地形・土地利用、幹線道路や公共交通などの地域の繋がりも踏まえ、地域区分を設定した。牧野地区は、万葉線や牧野大橋などによる中部地域との繋がりが深いいため中部地域とした。</p>	<p>①50 頁に記載済み</p>
第2章 地域別のまちづくり方針			
<p>A-6</p> <p>1 北部地域</p>	<p>①JR越中国分駅周辺の土地利用が進むよう部局間で連携すべき。</p> <p>②氷見市宮田地区は開発ができるのに、太田地区は市街化調整区域で開発できない。</p> <p>③津波が心配であり、例えば、防潮機能も備えた湾岸道路を整備すべき。</p> <p>④拠点間のネットワークは理解できたが、伏木の地域内のネットワークも重要である</p>	<p>①駅周辺を中心とした低未利用地の活用へ向け、庁内で連携して取り組みたい。</p> <p>②都市づくりの基本方針では、「原則、市街地はこれ以上拡大せず、既存ストックを活用しながら、都市と農業が調和したまちづくりを進める」こととしている。なお、市街化調整区域においても既存集落内で農用地区域外の場合は、農家分家などの開発は可能である。</p> <p>※農用地区域外の条件は氷見市でも同様</p> <p>③湾岸道路は、県をはじめ隣接市と連携しながら調査研究する。</p> <p>津波については、昨年度、津波ハザードマップを見直したところであり、今年度、地域ごとで地域の方と相談しながら避難計画を作る。</p> <p>④ご指摘のとおり地域内のネットワークも重要と考えている。現在、伏木地内では路線バスの東回り・西回りの伏木循環バスが運行されており、多くの方にご利用いただきたい。</p>	<p>①今後の参考とする。（関係課と共有）</p> <p>②31,54 頁に記載済み</p> <p>③今後の参考とする（関係課と共有）</p> <p>④55 頁に記載済み</p>
<p>A-7</p> <p>2 中部地域</p>	<p>①牧野地区は区画整理により、様々な施設が揃っており、ネットワークしなくても生活していける。</p>	<p>①牧野地区は、区画整理事業による拠点づくりや道路整備による連携強化が進められ、近隣地区との連携も含めて日常生活のための施設（機能）は充足していると考えますが、文化施設（機能）など拠点的な施設（機能）については広域都市拠点（都心エリア）とのネットワーク</p>	<p>①61 頁に記載済み</p>

	<p>②高岡やぶなみ駅前の用途地域が住居専用地域であり商業施設の立地が難しいことから、もう少し緩和すべき。</p> <p>③大規模な工業跡地も活用して欲しい。</p> <p>④高岡大仏を活かすため、坂下町通りで整備構想を作るなどもっと活性化すべき。</p>	<p>による連携・役割分担を考えている。</p> <p>②当駅周辺では、周辺的生活サービスを利用しながら、公共交通へのアクセスの利便性を活かした良好な住宅地を形成するため、周辺の土地利用の連続性も勘案し住居専用地域としたもの。今後、長期的なまちづくりの方向性も見極めつつ土地利用規制を検討したい。</p> <p>③大規模な工業跡地については、土地所有者等の意向も踏まえながら、調査等に努める。</p> <p>④坂下町通りでは、この通りの住民間で「景観づくりの住民協定」が締結され、良好な景観や賑わいづくりなど歩いて楽しめるまちづくりに取り組まれており、市としても支援している。</p>	<p>②62 頁に「長期的なまちづくりの動向も踏まえた土地利用の検討」を加筆</p> <p>③37 頁に記載済（関係課と共有）</p> <p>④65 頁に記載済み</p>
<p>A—8 ③ 北西部地域</p>	<p>①コミュニティが崩壊していく中でどうやって農地を維持していくのか。農家が住めるような環境にしてほしい。</p> <p>②公共交通が衰退しているのは、少子化が進んでいることが原因であり昭和 46 年に市街化調整区域の指定したことが原因ではないか。</p> <p>③国吉には働く場はあるが住む場所がなく、工業団地の周辺に住宅団地を開発すべき。</p> <p>④医療機関による送迎サービスがあるが、買い物とセットでのサービスを望んでおり、市がコーディネートするなど工夫してほしい。</p>	<p>①②③都市づくりの基本方針では、「原則、市街地はこれ以上拡大せず、既存ストックを活用しながら、都市と農業が調和したまちづくりを進める」こととしている。</p> <p>田園集落や中山間地域においては、「農林水産業振興プラン」などにに基づき、良好な農村景観及び農村環境の保全、生活環境の向上、コミュニティの維持を図る。</p> <p>なお、市街化調整区域においても既存集落内で農用地区域外の場合は、農家分家などの開発は可能である。</p> <p>④現在、拠点の形成の観点と並行し、買い物支援に関して、食料品・日用品の購入に関する送迎や配送サービスが展開されている。また、福祉・交通などにおいても類似の取組が展開されており、そうした取組の連携が図られるよう、仕組みづくりについて検討する。</p>	<p>① ② ③ 31,70 頁に記載済み（関係課と共有）</p> <p>④70 頁「様々な生活サービスの連携」を加筆</p>
<p>A—9 ④ 西部地域</p>	<p>①地価、昼間人口や勤務地なども含めて、もう少し詳細に検討していただき、将来像を具体化すべき。</p> <p>②福岡町の公営バスは無くさないでほしい。</p>	<p>①今回、人口・土地利用などの地域の実態や、将来の人口の動向を見ながら、まちづくりの大きな方向性を検討した。</p> <p>今後、市民の生活に密着した地域ごとのまちづくりのイメージを市民とともに作っていく必要があると考えており、その際には更に詳細な具体的なデータ等に基づいて検討したい。</p> <p>②福岡町の公営バスはスクールバスの役割だけではなく、中山間地の方々のネットワークと考えており、市で支えるべきものとする。</p>	<p>①今後の参考とする（一部 74,75 頁に記載済み）</p> <p>②78 頁に記載済み</p>
<p>A—10 ⑤ 南部地域</p>	<p>①歩車道が分離されておらず危険なので道路整備を急ぐべき。</p>	<p>①県道富山戸出小矢部線（戸出東西中央線）については、交通処理の円滑化、交通安全等の観点から整備を進められると聞いている。</p>	<p>①85 頁に記載済み</p>

第3章 都心エリアのまちづくり方針			
A-11 都心エリア	<p>①高岡駅南側の開発計画はあるのか。</p> <p>②郊外に施設を作れば駐車代も無料であり、新高岡駅周辺に都市機能や住宅をまとめればよい。</p> <p>③高岡市の人口規模で高岡駅と新高岡駅の2つの拠点を維持できるのか。新高岡周辺にはイオンができると聞いているが、高岡駅前東地区にまだ投資するのか。</p>	<p>①都心エリアの中で高岡駅南側においては、高岡駅周辺ゾーン、駅南ゾーン、新高岡駅周辺ゾーンを設定し、それぞれイメージを描いた。今後は、今まで整備してきた基盤を活かした民間活力を中心とした開発を期待している。</p> <p>②新高岡駅周辺ゾーンは、都心エリアの一部として交流・観光機能を担う地域と考えており、今後とも都市と農業の調和のとれたまちづくりを進める。</p> <p>③都市エリアは、歴史的経緯や都市機能集積等の特性に応じて5つのゾーンを設定している。高岡駅周辺は「県西部地域の交通結節点として交流・観光や商業・業務機能を中心とした多様な高次都市機能を集約するゾーン」、新高岡駅は「大都市圏と飛越能地域との広域的な交通結節点として、交流・観光機能を中心とした高次都市機能の維持・誘導を図るゾーン」としており、既存ストックを活かしながら、とそれぞれの役割を果たすことを考えている。</p>	<p>①89 頁に「既存ストックを活用した民間活力の活用」を加筆</p> <p>②92 頁に記載済み</p> <p>③26,88,91 頁に記載済み</p>

【第3編 実現化方策】

分類	意見の概要	市の考え方	計画への反映
A-12 ① 市民と行政の共創のまちづくり	<p>①人づくりや仕事づくりの施策をどのように支援していくのか。民間の力への期待はあるのか。</p> <p>②地域の人が一番地域を知っており、地域の人に絵を描かせてすり合わせをしてはどうか。</p> <p>③まちなかと郊外で二項対立的な考えではなく、市街地の形成期に応じた各世代の住み替えに伴う大きなスケールで居住循環という考えに基づいて計画を策定すべき。</p> <p>④非常にいい住環境が整っており、上手くPRして、人を外から呼込んでこななければいけない。</p>	<p>①まちづくりには「人づくり」の観点が必要であり、自分たちが住むまちを知り、調査・探究などの活動を通じて、まちづくりに関する意識啓発を図り、新たな地域活動の人材の育成を促進するほか、交流の場を創出し、まちづくりに関わる人材同士のネットワーク化を図る。</p> <p>②③今回、大きなまちづくりの方向性を示したもの。今後、その方向性を踏まえ、地域ごとの生活イメージの検討にあたり、各地域の特性(都市基盤、住宅の古さ、世代構成など)を踏まえ、小中学校などの地域ごとの居住の循環という考えも調査研究しながら、より生活に密着した将来像を市民とともに検討したい。</p> <p>④移住・定住の取組と連携しながら、市民や事業者だけではなく、市外へも情報を発信する。</p>	<p>①97 頁に記載済み</p> <p>②③95 頁に「一定の区域内における居住の循環」を加筆</p> <p>④96 頁に「市外への情報の発信」を加筆</p>
A-13 ③ 計画的な進行管理と計画の見直し	<p>①AIなど情報通信技術を使って利便性が感じられるよう民間と連携すべき。</p> <p>②将来的に自動運転車や空飛ぶ自動車が導入される可能性は高く、高齢者でも車に乗れるようになるのではないのか。</p>	<p>①②AIや自動運転技術の進展は著しいと認識しているが、それが国民に広く普及するのは時間がかかると考えられるため、そうした技術の進展も見定めながら随時、計画を見直すことを考えている。</p>	<p>①② 98 頁に記載済み</p>

A-14 4 効率的・効果的なまちづくりの推進	①将来は、車が少なくなったり、様々なサービス形態が変わる可能性があり、ネットワークについても福祉などと連携する必要がある。	①現在、食料品・日用品の購入に関する送迎や配送サービスが展開されている。また、福祉・交通などにおいても類似の取組が展開されており、そうした取組の連携が図られるよう、仕組みづくりについて検討する。	①100 頁に記載済み
--	---	---	-------------

B 立地適正化計画

分類	意見の概要	市の考え方	計画への反映
第3章 立地適正化計画の基本的な方針			
B-1 1 市が目指す都市構造のイメージ	①郊外に住むなどと言った方が分かりやすい。 ②高齢になったときにまちなかに行けと言われても経済的に無理である。 ③限界集落のインフラを撤去し、バスルートの沿線に住まわせればよい。 ④福岡町五位山地区が、本計画の対象外となっているが、五位山地区は放っておくのか。もっと大胆に山を下りてきてもらうことも考えてはどうか。 ⑤山間部の方の移住については、そこに住んでいる方の想いもあり難しいと思う。	①②今回の計画は、自動車の利用を中心とした郊外でのゆとりある生活を尊重しつつ、車を自由に利用できない、高齢者、障がい者や子供なども徒歩や公共交通を利活用しながら安心して暮らせるライフスタイルを提案するもの。郊外にお住まいの方を強制的に移住させることは考えておらず、公共交通も含めた既存ストックを活かしながら、長期的に、かつ緩やかに居住を誘導したいと考えている。 ③④⑤居住誘導については、今居住されている地域から強制的に移住させるものではない。五位山地区においては、「山村振興計画」などに基づき、地域コミュニティの持続を図る。	①②16, 17 頁に記載済み ③④⑤16, 17 頁に記載済み（関係課と共有）
第4章 誘導区域・誘導施設・誘導施策			
B-2 1 誘導区域の設定方針	<共通> ①都市計画マスタープランにおける土地利用（用途地域等）と立地適正化計画（誘導区域）はどう関係しているのか。 ②誘導区域について、福岡中央地区都市再生整備計画と整合を図っているのか。 ③福岡町では駅周辺だけではなく国道8号沿線に様々な機能があるが、誘導区域と用途地域との関係性がよくわからない。	①②③本計画は、都市計画マスタープランで示した将来像の実現へ向けたアクションプランとして、コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを具体化するもの。 基本的な方針（公共交通を含め、インフラや住宅などの既存ストックを活かす）に基づき、市街地（用途地域）の中でも、徒歩や公共交通を利活用しながら暮らせる区域を誘導区域とした。 福岡地区においては区域の検討に当たり、福岡駅前を中心とした都市再生整備計画を勘案して区域を設定した。	①②19,20 頁に記載済み

	<p>④誘導区域外の方への施策も併せて示していかないと、なかなか理解は得られないのではないかと。</p> <p>⑤東五位地区内の高岡インターチェンジや統合される小学校の建設予定地周辺など、誘導区域を拡大すべき。</p> <p><居住誘導></p> <p>⑥全体として人口減少が進む中、まちなかの人口を維持するのか。人口が増加している地域との齟齬があるように見える。</p> <p><都市機能誘導></p> <p>⑦伏木地区において、駅を中心にまちづくりを進めるのではなく国道 415 号沿いを中心にまちづくりを行った方が安上がりである。</p>	<p>④居住支援施策は、市全体における教育、福祉、交通など様々な施策の中の一部である。今後、誘導区域外も含めた居住支援施策はその中の一つとして具体化する。</p> <p>⑤誘導区域については、法律上、市街化区域内で設定することとされていることから、高岡インターチェンジ周辺等の土地利用は、別途検討する。</p> <p>⑥居住誘導区域の考え方は、どこの地域の人口が増加しているという観点ではなく、基本的考え方(既存ストックの活用)や地域の実態(人口密度、低未利用地の分布)のなどを考えとして設定したもの。</p> <p>⑦誘導区域の設定にあたっては、過度に車社会が進んでいる現状を鑑み、車を利用した郊外でのゆとりあるライフスタイルを尊重しつつ、徒歩と公共交通の利用を中心としたライフスタイルを提案するもの。 伏木地区は、公共交通の中心となる伏木駅を中心としつつも、自動車利用者により成り立っている国道 415 号沿いの生活サービスも利用しながら生活するイメージで区域を設定した。</p>	<p>④今後の参考とする</p> <p>⑤今後の参考とする</p> <p>⑥20 頁に記載済み</p> <p>⑦19 頁に「車を利用した郊外でのゆとりあるライフスタイル」を加筆</p>
<p>B-3</p> <p>② 居住誘導区域</p>	<p>①伏木地区において、氷見線より海側に居住誘導区域がある津波ハザードマップとの整合性はあるのか。</p> <p>②福岡町の黒石川は河川の幅の予定があり、そうした区域はまた移転が必要になることも想定され、区域に含めるべきではない。</p> <p>③野村地区(蓮花寺等)など、幹線道路もできて生活の利便性の高く、若者に魅力のあるまちづくりをしていくべき。</p> <p>④牧野地区では既に開発する宅地は無く、まだ宅地開発の余地がある姫野・金屋地区は誘導区域に入れるべき。</p> <p>⑤福岡町の旧北陸道沿いはうなぎの寝床のような住宅が多く、若者のニーズのある郊外で、多くの施設が集積し駐車場も多い福岡総合行政センター周辺の開</p>	<p>①②居住誘導区域の検討のステップ1において、災害の危険性の高い地域は、対象としない方針であり、特に土砂災害や津波については突発的な災害で避難までの時間的余裕がないものについて、今回含めていない。 なお、河川の浸水想定区域については、ハザードマップの作成・周知を行うとともに、地域防災計画等によって避難体制の整備を推進することを前提に居住誘導区域の対象とした。</p> <p>③④⑤⑥ご指摘のあった地域については、居住誘導区域を検討するステップの中で次のとおり考えを整理しており、車の利用を中心とした郊外のゆとりあるライフスタイルを送る地域とし、誘導区域に含めていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 野村地区(蓮花寺等)、牧野地区(姫野・金屋)、福岡町(荒屋敷)…公共交通が少なく、低未利用地が多いこと。 福岡町(下蓑)…工業団地が形成され居住に適さないことや低未利用地が多いこと。 	<p>①②21 頁に記載済み</p> <p>②③④⑤ 23,26 頁に記載済み</p>

	<p>発可能な田園地域を含めるべき。</p> <p>⑥福岡駅の南側(下叢地区等)は駅から近いにも拘らず、居住誘導地域に入れるべき。</p>		
<p>B-4</p> <p>③ 都市機能誘導区域</p>	<p>①二塚地区や林地区は大型店の進出や北陸新幹線効果があるため、開発地域にあたるのではないか。</p> <p>②福岡健康保険センターを都市機能誘導区域に含めるべき。</p>	<p>①都市づくりの基本方針では、「原則、市街地はこれ以上拡大せず、既存ストックを活用しながら、都市と農業が調和したまちづくりを進める」こととしている。二塚地区の北部は、都市計画マスタープランの中で、都心エリアの一部として「新高岡駅周辺ゾーン」に位置づけ、「交流・観光機能を担う地域」と考えており、今後とも都市と農業の調和のとれたまちづくりを進める。</p> <p>②ご指摘のとおり都市機能誘導区域に含める。</p>	<p>①29,30 頁に記載済み</p> <p>②32 頁の図を修正(区域に含める)</p>
<p>B-5</p> <p>④ 居住や都市機能の配置の考え方</p>	<p>①サービス付き高齢者住宅を、郊外の田園地域ではなく中心市街地に作ってはどうか。集まってイベントを行うなどすれば医療費の削減にもつながる。</p> <p>②市内でも一番に人が集まる高岡駅周辺に公共施設(市役所、市民会館、総合体育館)を立地すべき。</p> <p>③大和について、夕方に閉まってしまう店舗ではなく、耐震化されていない市役所を入れてはどうか。</p> <p>④人が集まる街にするため、学校や美術館など魅力あるソフトの施策を進めてはどうか。特に良い学校は若い人が集まるので積極的に進めるべき。</p> <p>⑤旧西広谷小学校にある埋蔵文化財センターについては、市内外から訪れる施設だが、市街地から遠くいきづらいことから、まちなかに立地すべき。</p> <p>⑥廃止とされている施設についても、地域での新たな活用策を提案することも必要ではないか。</p> <p>⑦学校の統合の話はどう考えているのか。</p>	<p>①サービス付き高齢者住宅については、その立地に関してまちづくりとの整合の確保が求められており、今後、ご提案のあった内容も含めて、検討したい。</p> <p>②③④⑤ご指摘のあった施設については、広域都市拠点(都心エリア)に配置することが望ましいと考えるが、公有財産の活用などの観点も含め、今後、公共施設再編(今後の方向性の決定、利用の促進)などの中で検討する。</p> <p>⑦高岡市教育将来構想検討会議で検討しており、今後 10 年間の方向性について、今年度中に取りまとめる予定。</p>	<p>①今後の参考とする(関係課と共有)</p> <p>②③④⑤⑥今後の参考とする(関係課と共有)</p> <p>⑦今後の参考とする(関係課と共有)</p>

<p>B-6</p> <p>5 誘導施策</p>	<p>①居住誘導区域内への誘導策を示さないと誘導されないのではないか。</p> <p>②一度減ったまちなかの人口を増やすことは容易ではない。ただマンションを建てればよいわけではない。</p> <p>③まちなかの魅力を上げるような誘導策が必要である。</p> <p>④趣深いまち並みを活かし、町家をリノベーションしてカフェなど、まち歩きの途中で休憩できるような店舗を誘致してはどうか。</p> <p>⑤中心市街地の空き家の建て替えにあたっての既存の住宅の取り壊しに助成金があればよい。</p> <p>⑥高齢化社会の中では買い物と医療の誘導がキーワードとなる。</p> <p>⑦小矢部川以西では近隣にコンビニしかなく不便であり、例えばスーパーの送迎サービスの展開など民間がビジネスとして取り組めるよう、自治会としての努力や、行政のサポートが必要である。</p> <p>⑧郊外の大型店舗が原因で、食料品を取り扱う身近な店舗が少なくなっており、日常生活で一番重要な食料を確保する方法を検討すべき。</p> <p>⑨スーパーを誘導しようとしても具体策がないと来ない。</p> <p>⑩郊外型のゆとりある住宅とまちなかの利便性の良い住宅を組み合わせ、親世代と子供世代の需要をセットで考える施策が必要である。</p>	<p>①②③④居住の誘導に当たり、居住支援策（空き家・空き地の活用等）と合わせて、環境の整備（拠点の形成（都市機能の維持・誘導）、公共交通の維持、景観の形成等）を行うことで居住の誘導を図る。</p> <p>⑤まちなかでの空き家の解体を行う場合、隣接土地購入の上、隣接地上の建物を除却することに対して「まちなか空き家等除却支援事業」を活用してもらうことが可能であり、今後も引き続き支援したい。</p> <p>⑥⑦⑧⑨日常生活においては、身近な地域で生鮮食料品を取り扱う店舗や内科を有する診療所が必要と考える。 今回の計画では、生鮮食料品を取り扱う店舗面積 1,000 ㎡以上の店舗を誘導施設とし、拠点内に維持・誘導したいと考えており、今後、拠点に都市機能を維持・集積し、そこへのネットワークを確保するなどの環境整備を行うとともに、拠点周辺や拠点へアクセス可能な地域に一定の人口密度を保つことで誘導施設の立地を促進したい。 また、拠点のない北西部地域も含め、地域によって状況は異なることから、既存の商店街への支援や、福祉・医療など様々なサービスの組合せも含めたサービスの提供なども含め総合的に検討したい。 なお、診療所については、引き続き、今後の立地動向や、関係機関との協議も踏まえ、追加について検討する。</p> <p>⑩居住支援策については、いただいたご意見や居住誘導区域も踏まえ、子育て世帯や移住・定住世帯への支援を中心に検討する。</p>	<p>① ② ③ ④ 38 頁に「居住支援に加えて環境の整備」を加筆（関係課と共有）</p> <p>⑤ 38 頁に記載済み</p> <p>⑥ ⑦ ⑧ ⑨ 38 頁に記載済み（関係課と共有）</p> <p>⑩ 今後の参考とする（関係課と共有）</p>
<p>B-7</p> <p>6 届出制度</p>	<p>①誘導へ向けては、事業者などと連携し行政が積極的なPRが必要である。</p>	<p>①本計画は宅地建物取引業協会などの関係機関からご意見をいただきながら策定作業を進めているが、届出の機会を通じて、居住支援策の情報提供や、企業との対話を行うなど制度を積極的に活用する。</p>	<p>①39 頁に「事業者等への情報提供や企業との対話」を加筆</p>

	②届出の審査はどこで行うのか。	②市都市計画課へ届出の審査を行う。	②39 頁に記載済み
第5章 計画の進行管理			
B-8 1 目標値の設定	<p>①居住誘導区域内の人口密度を維持するということは、郊外の人口はますます減少するということか。</p> <p>②誘導区域以外では届出が必要なことについて、そこには住まないよう規制しているように聞こえる。</p> <p>③効果を図るため、成功するための要素＝KFS (key success factor)を設定してはどうか。</p>	<p>①②本市を含む地方都市では、全国的に人口減少が進む中で、居住誘導区域内の人口密度を維持するには、相対的に郊外の人口が減少することも考えられる。しかし、既に市内の各地域にお住まいの方を強制的な移住を促すものではなく、転居などの際にそれぞれのライフスタイルに応じた地域に居住を選択していただく中で、全体として人口が維持されることを目指す。</p> <p>③今回、集める、繋ぐ、増やすの3つの施策の方向性ごとに、達成状況の把握及び効果の把握のための目標値をそれぞれ設定した。</p>	<p>①②16,41 頁に記載済み</p> <p>③41 頁に記載済み</p>

共通の意見

分類	意見の概要	市の考え方	計画への反映
計画策定における市民意見等の反映・周知に関する意見			
C-1 市民意見の反映	<p>①学校の先生の意見ばかりではなく、市民の意見をもっと聞けべき。</p> <p>②自治会の組織などをうまく使ってほしい。</p> <p>③誘導区域の設定については、各階層での話し合いが必要である。</p>	<p>①②③今回の計画は、市民代表や各種団体からも参画いただき策定懇話会から意見をいただきながら策定作業を進めてきた。</p> <p>また、計画の中間段階と今回の素案段階において、パブリックコメント、市民説明会、連合自治会・各種団体を対象とした出前講座のほか、地域審議会や市政モニターなどからの意見を踏まえて設定した。</p> <p>今後とも引き続き、自治会や各種団体との意見交換を行い、ご意見等を計画に反映(見直し)する。</p>	<p>①②③都市計画マスタープランー実現化方策ー98 頁、立地適正化計画ー計画の進行管理ー42 頁に「自治会や各種団体との意見交換による計画の見直し」を加筆</p>
C-2 計画の周知	<p>①行政が何かやってくれると考えている人が多いが、自分は何ができるかを考えるよう(地元の商店で買い物をする等)、市民の心構えから説く必要がある。</p> <p>②自分の利益だけではなく、将来のために必要なことを考えるという基本的な考え方を周知する必要がある。</p> <p>③計画の内容や市民意見募集について、ケーブルテレビなど様々な情報伝達手段を使い周知すべき。</p>	<p>①②計画で示した将来像は描くだけではなく、いかに行動に移し、実現していくかが重要であり、実現化方策の中では、1本目の柱として「市民が主役のまちづくり」とし、共創のまちづくりを掲げた。</p> <p>今回は、複雑化・多様化・深刻化する地域の課題に対して、自分の利益だけではなく、市民、事業者及び行政が、そこに共通の価値を見出し、ビジネススペースで課題を解決していく取組を導入することを検討したい。</p> <p>③今回の計画の策定は、各地域のまちづくり第一歩であり、まちづくりへの市民意見の反映に加えて、計画の内容などについての情報発信・啓発を行う。</p>	<p>①②都市計画マスタープランの実現化方策 95,96 頁に記載済み</p> <p>③都市計画マスタープランー実現化方策ー98 頁、立地適正化計画ー計画</p>

			進行管理－42 頁に「計画等の情報発信、まちづくりへの意見の反映」を加筆
その他 に関する意見			
C-3 推進体制	①市民の一人、企業人としてまちづくりに挑んでいきたい。 ②市と地域が一緒に考えていかなければならないし、そういった体制を作るべき。	①②どのようなまちづくりをしていくかについては、市が一方的に決めるものではなく、地域の方がどのようなまちにしたいかという思いが大切だと考える。 将来像の実現に向け、市では市民や各種団体、関係機関等と連携しながら、施策を推進するための体制をつくる。	①②都市計画マスタープラン－実現化方策－98 頁に記載済み、立地適正化計画－計画の進行管理－42 頁にい「地域住民と連携した施策の推進」を加筆
C-4 計画期間	①20 年後だけではなく、短期、中期、長期など期間ごとに施策を打ち出すべき。 ②なぜ 30 年、50 年ではなく 20 年後なのか分からない。	①②都市計画マスタープランで描いた将来像や、立地適正化計画で打ち出した居住や都市機能の誘導については、長期的な取組を想定しながら、各ステージで取組を段階的に取り組む必要があると考えている。 このことから、立地適正化計画の中では「段階的な都市構造の変容のイメージ」を、概ね 20 年後(2035 年)、人口ビジョンの計画期間(2060 年)とそれ(2060 年)以降に分けて示した。 今後、そうした長期的な取組も視野に入れつつ、計画期間(20 年)に関わらず、5年ごとの国勢調査(人口の動向等)や都市計画基礎調査(土地利用の状況)も踏まえた定期的な見直しをするほか、各事業については毎年の検証・見直しを図る。	①②都市計画マスタープラン－実現化方策 98 頁、立地適正化計画－立地適正化の基本的な方針 17 頁に記載済み
C-5 公共施設再編等	①御車山会館等の施設は無駄も甚だしい。 ②市民会館は休止で支障ないので不要である。	①公共施設再編計画により、既存施設は、コスト削減と利用促進を図る。 ②公共施設再編計画により、市民会館は短期(H31～35)に方針決定することとしている。	①②今後の参考とする(関係課と共有)
C-6 財政面	①良いプランだが、厳しい財政状況の中、この計画の推進に実際いくらかかるのか示すべき。 ②市民や企業から寄付を募ることも考えてはどうか。	①②本計画は「都市計画に関する基本的な方針」を示す計画であり、具体的な事業費は示さない。ただし、厳しい財政状況の中、都市づくりの基本方針では、既存ストックを最大限有効活用し、インフラなどは新規整備から維持管理にシフトすることを打ち出したほか、民間活力の活用など支出を減らすことだけではなく、稼ぐ(民間投資を呼び込む)という観点も重要と考えており、計画にその考え	①②都市計画マスタープラン－都市づくりの目標－23 頁、立地適正化計画－立地適正化の基本

		を盛り込んだ。	的な方針－ 17 頁に記載済み(関係課と共有)
C-7 その他	<p>①大切なのは優先順位である。</p> <p>②このまま何もしなかったら 15 万人の目標人口もどうなるか分からない。</p> <p>③規制をすれば人も物も逃げていくが、補助をすればよってくるのではないか。</p> <p>④地域のお祭り(福岡町つくりもん祭り、中田かかし祭り)を連携すべき。</p> <p>⑤まちなかだけでなく、地域の歴史あるお祭りを守れるか危惧される。</p> <p>⑥難しい単語が多く、よくわからない。</p>	<p>①ご指摘のとおりであり、市全体として優先順位を見極めながら取組を進める。</p> <p>②人口減少は最大の課題であることから、平成 28 年に「未来高岡」総合戦略を策定し、人口減少の克服に向け、まち・ひと・しごとの観点から基本的な方向性や施策を定め取組を進めている。本計画も“まち”の部分からコンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりに取り組む持続可能な都市構造を実現する。</p> <p>③法律や施策などの規制については、その運用を柔軟に行うなど、既存の制度を十分に活用する。また補助制度については、財政健全化緊急プログラムでは事務事業の見直しの対象としており、補助の目的、その必要性などを十分に勘案しながら行う。</p> <p>④⑤中心市街地や周辺市街地だけではなく、各地域には歴史・文化や祭礼行事など守るべきものがあることから、連携も含め、本計画のみならず関連計画も含めて総合的にまちづくりを推進する。</p> <p>⑥専門用語が多く分かりづらい点もあるため、計画の参考資料として用語集を作成する。</p>	<p>①100 頁に記載済み</p> <p>②都市計画マスタープラン－実現化方策－95 頁に記載済み(関係課と共有)</p> <p>③今後の参考とする(関係課と共有)</p> <p>④⑤今後の参考とする(関係課と共有)</p> <p>⑥参考資料として「用語集」を加筆(予定)</p>